承寛襍録 原名諸書留 十止

自元文四年
至寛保二年

共十

内閣文庫
番號 和 34487
冊數 10 (10)
函號 150 122

内閣文庫
和書
類 三四四八七號
一〇冊
一五〇函 一八架

国立公文書館
National Archives of Japan

諸留書巻第十

一　元文巳未年ヶ
寛保二戌年迄ヲ溜ス

国立公文書館
National Archives of Japan

諸国書付十
一元文巳未年
武蔵国葛飾郡田中領内代官所
岩村　田きん百姓
浪宮め未六十歳

右之者百姓身分分外ニ奢り数年来
浪宮め糸束帯之儀と減日況下日府住居と
奢り者ニ成候代官方より申達ス
之儀ハ第十後浪二十枚以下しる

一 同年大坂東津屋岡利兵衛天満屋浜波市郎
指渡ハ有世話之儀ハ上ヶ申ス

一 同年正月十二日
尾張侯ハ情々幸ヒ辞職願連坂但ハ
若尾張ハ東世話為
上使
松平大学頭 春嶽
松平安藝守

上意ハ筋違ヒ
一 元文日未年春折ヶ降二月中迄ハ度々出
一 同年六月廿六日
西丸御側
大久保伊勢守
同版立
菊ヶ間御縁番
為御城廻同心
指渡ハ
御番右御老中江
御渡
御用部屋
御番
御用部屋
御番
御用部屋
御番

右出番ニ付　五郎

三百俵宛

一　同年九月六日

利根姫君御出産九月十一日浅野内匠頭殿

以家御

利根姫君御

白銀　六十枚

帽子　五十把

三疋　二荷

武士二人

清泉女源姫殿ニ

清泉家　三疋

白銀　六十枚

二疋　一荷

巻物　二十二種一荷　松平越前守殿

同　陸奥守ニ

二種一荷ヲ　同　内匠頭ニ

恵女中ヘ　蔵ヶ下相渡ス

上使　松平伊豆守

一位様
月光院様
竹姫君様
石丸督様
刑部卿様
田安御簾中様
右之位方々様方ゟ御進物之進
利根姫君様ゟ
之方様ゟ

巻物　二十
三種　二荷
清酒器　六荷
綿　二種　二十把
巻物　一荷　二十
二種　一荷
二種　一荷
二種　一荷
之進

鐵茶釜ゟ
陸奥守ゟ
門宗ゟ
松平加賀守

一 [illegible] 高足ヶ 十万石以上

一 [illegible] 武蔵定宛

酒井左中
義[illegible]代

一 [illegible] 高足ヶ

大学殿
播磨守
左京
秀之助
大坂城代

若年寄
[illegible]石以上
御家門[illegible]

一 同年九月十六日松平淡路守病死ス嗣子大学殿
二男大炊之助ヲ養子ニ[illegible]

一 同年九月
刑部少輔ヲ於巣鴨ニ[illegible]
七百三十六坪也

一 同年九月松平阿波守病死ス嗣子中務

有之分

年寄子　　松平志摩守

右志摩守故障後ハ金弾水戸ニ居住所也

一　同十二月十一日

元服　御目見　諸一字等ハ従江戸下

侍従ニ任　　松平又三郎

御右ノ

白浪　　三十枚

巻物　　十

御馬毛足深巻　　義摩守家紋

御茶如舊例

御右ノ

金馬代

御鐔　　三十把

御盃　　大隅守より

御門渡　　義清津但馬守

沸者
沸授之者
御置茶時沸道具酒順　御刀　大和志津
砂上　納茶道具　代金二十枚
代金十五枚
一同時
御一字　沸称号茶　巳前以　御出ハ　蜂須賀志摩守
御左刀　蜂須賀志摩守
白波　三十枚

老拍　六ヶ
沸馬之足保脊
集人作
沸者
金馬代
二十把　松平阿波守
永井尤沸守
御茶式ハ同例
沸順沸刀　延寿　代金十五枚
砂上沸刀　光世　代金十枚

一元文四年未十月朔日
御子代若君様髪
之方御ゟ

御白髪　二字図像　代金六十枚
御大箱　吉田貞次　代金三十枚
御右刀　備前長光　代金六枚
御脇差
大鋼之御ゟ
其御右刀

十

毫物
御馬鞍置
三荷二方

諸大名献上
御之方御ゟ

二荷　十万石以上
一荷　六万石以上
一荷　一万石以上
一荷　十万石以上陪臣

清鉛屋預り

二俵 六百疋　　十万石以上
一俵 六百疋　　六万石以上
一俵　　一万石以上
一俵一荷　　十万石以上源左衛門
一銀三枚　　三万石以上　伍乳人いさの
同鉛枚　　十万石以上　同
同巻枚　　六万石以上　同
金六百疋　　伍さ

金三百疋　　伍を
金壱百疋　　伍さ

同二日想出仕也

一　同年　　小堂清左衛門殿ヲ以上ル

中山平七郎

西洋流ノ銃ト長筒ト伝右衛門人ヲ以テ
伍拾挺〻伍拾挺宛　仰付レ

一　同年二月

鬼脳催生丹

右一切ニ張紙ニ換有ル ニ 栗ヶ原村渡ル
調合ス 作州浦順法度清書ニ而ニ可
年也用方ハ渡見ヶ指出ス事ニ

一 同年四月別所孫蔵ヶ渡船ヶ対馬ヶ送渡候ニ付
作州浦ヶ罪人永牢ニ者十九人死罪ニ者
ハ者三人追合共二人出牢ハ敵ニ預有ル所ニ
お海ヶ云ル十三日ニ孫蔵ヶ渡別ニ成 御免事
中渡ル人ニ寄用二百文ヲ年ヶ追放ニ
成申ス

一 同年未七月 大出者松浦出雲守江
死罪 別所孫四郎ヶ
右二孫左者ニ変南北ニ年ヶ渡四郎ヶ
生ル中ヶ罪ニ新ニ成清城ヶ出ル成ル
身死罪ス 作州ニ
右事久永直次郎様ヶ御聞ニ成ル加而
ひろ

三十九人 表 麻布網代町ニ居住
三十三人 表 作州ヶ千代年法度 表名濱
表年次

三十五人表　　十五歳

右之者共人のもと奥方に数いる人之儀
繁と御つとめ申候ハ知いかゝ

一　同年九月　　牛込左兵衛

権現様御茶屋　西丸御仕舞之所浪人
下ル

金九郎兵衛

一　享保四亥年二十一年茶屋遠州荒井之者跡風之儀
女人流ハ漂流者共ニ二十一年ニ成当年ニ成
ハ分　又成ハ江　　荒井等分申達
共一年以茶女人流吹流ニ成荒井之者
三人茶屋年石流吹流ニ成水ニ而三人
右者共今度八丈流ニ遣ル来ル分　六月三日ニ
小伝馬町吹上
上覧不仕云奥茶ハ出ル　　代官所後ニ帰
石達出奥出船所流刑居ハ中世来ル右ニ成吹流

[illegible]

一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右三人

同　水戸仁右衛門　南米　[illegible]

同　同年二右衛門　南米　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

波之荒井筒山之麓ニ於沖ニ於て変
水之丈九人ニ成ル者ハ武人ハ十
一人家潮ハ高之深ハ七尋ニ成ル荒濱
ハ少シ出ル地形横濱上家一人家ニ於て合
十五人家ニ成ル荒濱ニ出ル船ハ元中ニ
順風ニ成ル時ハ船ハ牙城ノ内ニ入津仕
於同所ニ出船人ハ元家ハ少シ出来申
中ニ右出船人ハ成ル等ハ無之ニ成ル
元和中ニ之ニ空船ハ少シ中南船

同伊の国右に来り遂漂流仕来候ハ
同所ニ捕ル申候ハ為仕ル之十三人
宗右同所出船仕候小牛湖ニ入津同年
十月廿六日同所出船仕候ハ之ニ房ニ九十
九里迄ニ成ル船同晦日雑風ハ之ニ沖中ニ
吹出シ次第ニ浪風強く船ハ難持ハ
牙帆ハ切捨ル之ニ方ニ漂流仕候来者
水主共ハ切正月廿六日ニ須磨山ニ上牙
取ル船ハ深ニ成ル原ニ奥湖釜ニ成ル

奥かゝ横入右ゝ俗ゝ地ゝ横入い道
を丹波路つゝ紀ゝ人ゝ歩ゝ
路ゝ人ゝ歩ゝ山ゝ
有合ゝ海ゝ
所ゝ山ゝ
本ゝ彼ゝ
橋ゝ彼ゝ
一滴ゝ小ゝ
仕ゝ流ゝ

石橋ゝ橋ゝ
河ゝ
ゝ
ゝ

茶を作ること切レいに不仕候ハ帆或ハ船板ハ流
寄候ハ中にハ茶作二十ヶ年来在住之間
海上を通りハ出来ハ船ハ尺寸ハ成ハ
ハ在住中長成尺寸ハ
如何右茶樹ハ流寄候茶樹ハ
ハ

一

右茶樹茶千五百本程長成候
ハ〳〵国産ハ樹茶ハ長成ハ
産ハ春の頃芽出ハ芽尺寸

ハ樹茶ハ芽ハ芽ハ
国を掘ハ掘ハ流ハ
中ハ掘ハ実ハ年ハ
年ハ樹二年三年ハ
八年ハ長ハ
根ハ芽ハ樹茶ハ
黄ハ掘ハ中ハ

一

右源の儀一里程ハ
高井ハ町ハ全新焼山ハ演但

瓦葉萸の木葉沢山に成ハ一切
云ひ伝へ芽出し焼小屋浦渋ひて
中根も云ふ山瓦 城倉より一町沢も也
洞穴二ツ有ふ二ツ共に城屋敷
い薪ハ葉萸木ハ山方も焼ひる石焼
ふ中の芽出焼葉を結
夫食に仕い多ハ私共山方ゟ出る事多
ゟ葉ハ白く風切羽ハ黒く左ふ
羽迄ハ三ヶ六尺位も有る大多と

ふ葉ゟ中に私共進ゟ参ル也ふ
中に弁椿ゟ歩数中に長須と長
ヶ月迄ハ何国へ源ゟ出ル事
ヶ月ハ魚と汐中に魚ハ海藻布奥ゟ
汐中に也汐計ゟ波ゟ結流ゟの板波
ゟ切上ゟと捨ひを計と石ゟてゟ
糸ハ帆の按糸解ゟ石大多ゟ多ゟ汐結
て潮ゟ黄之又ハ焼ゟ食ゟ仕ハ大多
の外小多ゟ結ゟ二ヶ所ゟ

[illegible]

但右之者の名跡[illegible]私共名跡

[illegible]遣へ尚春江戸詰江戸ハ

私の者共源左衛門ハ南部辺ハ

[illegible]名を名乗べ中[illegible]

渇釜[illegible]ハ右源左衛門より持て

[illegible]

[illegible]二十ヶ年ハ保中万[illegible]

[illegible]大名中一の吏食に仕居[illegible]

渇釜保[illegible]

私[illegible]水を使ひ人[illegible]十五人[illegible]

水を[illegible]三郎[illegible]八郎八左衛門[illegible]

江戸[illegible]相雇ハ[illegible]右衛門

八郎治ハ八人[illegible]

者[illegible]南部より武[illegible]

[illegible]使ひ[illegible]ハ[illegible]

の者[illegible]ハ右九人[illegible]源左

九三ヶ年程八ヶ月命ながらえ後
十ヶ年程内病ひ五果中に年月ハ一地
おゝ内中に対ス人ハ病ハ老
命ハ病と内ハ病と裏ハ又ハ食事堂
に成り食ハ腹中に
変新ハ成ハ右病ハ揚り出ス用ハ不
ス暫ハ成り食ハ右ハ病ハ新成流ス
に歩帆ス腹ハ死ス者ハ衣類用ハ
腹ス丈ス也 数年来おつきなく

に対食事ハ仕ハ大豆の皮とす
上ハ仕ハ中ハ数中に而海老と海ハ
ハ暖ハ
養氣ハ病ハ数ハ新ハ渡能ハ
在病中ハ雷沢ハ雷地震ハ波ハ
年ハ雷ハ在病中沢中ハ
金雨ハ中ハ氷ハ度ハ氷ハ
雷ハ度ハ中ハ地震ハ年ハ渡ハ数ハ
ハ在病中一度雷ハの地震ハ中に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ムと合私共城戸人長治の仲ヲ中ヲ
解ク案居い者ヲ解而長治ハ上り解川上ヲ右岡
せ角倫右ヲ者ハ根兼ヲ張御ヲ長ヲ人ハ
見ヲ出ル水の用意ヲ長文かヲ長せヲい
地長右ヲ者ハ地ハ源長ハ南三月十九日ヲ
取ヲ治ク地者ヲ義織兼ヲ
百取ヲ右ヲ長ヲ治ヲ長ヲ口和ヲ治ハ変ヲ
四月十七日ハ風ヲ有ヲ人ハ解ヲ上ヲ人
余組ヲ八永の解ヲ大ヲ張ク根兼兼

私ヲ長入金ハ根ヲ武ヲ根入波ク
出帆ヲ方角ヲ右ハ解ヲ根岡ヲ
ハ治ヲ成変ヲ方変ハ岡右地方ハ向
ヲ変ヲ見ハ変ハ同ハ人治山ヲ尺ハ長
風無変ヲ治ヲ家兼ク地文ヲ
南月十九日ヲ方ヲ何治ヲ右ハ治ヲ
煙ヲ見ハ百力ヲ左長ヲ人ヲ右
長ハ機治人ヲ治ヲ長ハ治の名兼ハ人
八人ヲ治ヲ中ハ地者ヲ国ヲ没人

中ハ之会ハ命抱ハ野ハ歩度浦用船之
出国ニ伊勢之国之法会之寺毎異
之人船より八丈島迄ハ里数方角不
詳故ハ時ハ風雪ハ或ハ法多船
ハ之或ハ寺ハ海ハ里数方角ハ一向
異之ハ石ハ所ハ味方中ハ振かし
お遠之浦ハ所ハ

未六月廿九日

巳八
仁三郎
年三郎

右之人之者共ハ浦等ハ振迄ハ浦者
中上ハ阪ハ拾ハ取知ハ

父ハ溺死之人　菊次郎
浦用船ハ　服部源兵衛

江戸ハ江下ハ五年五八船
船水主十七人

一

秋其當二月廿九日出人漕ク漂流ス清兵衛
波浮ニ上陸ス之人五人ハ其ノ夕ヲ以テ
船ニ復ス而シテ翌日ハ波浮出帆八丈島ニ
碇泊ス用船ハ出国ス漂流シ漂着ス物産ハ
ハ其ノ者共

一

秋其儀江戸表江呼ハ秋沖
秋江帰着ス
七月南部ヨリ荷物買積ヲ以テ江戸川

出船八月十七日南部八戸港ヘ入津大豆
蕎麦買積同所ヨリ出船ス乗人
船頭以下十七人宗旨同十二月二日品川
出船同十日伊豆東南浦ヘ入津日
和待居中ハ同十二月朔日出船房州
洲ノ崎迄ノ内ニ逆風難渡
吹ハ船頭ハ
為実ハ江ハ船
切捨数日漂流ス呑水切レ存命定。

此度の変当未正月十二日浦山と見合
力を以仮帆板浦迄同日着来り浦へ
着り参りる事に取り宜敷家人家
水の如き取り扱ひ及言出る事取へ
居り居る変病中迄取り出る風吹出事難
成へ候所着り出し居る事成而帰り場
無変荒浜成変事難敷家様り風強へ
参り病中迄渡聖勢事取り付場へ
と見申し候へ油縄招切流矢と参る事取

安しい浦へ居り船出国人家
水の如き寄り扱ひ者人浦へ成所
谷合に浦の浦り居出一船入仮家
家安しい元所帰仕取と参待
り参る南三月十日地方取風と参り
船出取仕り候へ又風変り或ハ実也或ハ
着り十四日より高砂山三日里迄
て隔四十本又人扱も少日出変人
の船山浦と中船と浦迄着舟着

あれ山の山ひ鬼角地方ひ人を喜り
山ひ去れ申一水切ひ飢仕ひ去国ひ九日
又ゝ浅山ひ人ひ分ひ喜り妻也人家とお
ひ所のもとりあ免ひ人ひ焼山ひゝ人
家あるゝ山中ひ絶ひ水ひ飢者ひて
あひひ所ひ悪ひ悪ひ人ひ分ひ駆き
ひ妻ひ老人を人ひ生ひ者ひ所ひ者ひ
ひ人を荒井ひ去ひ申ひ年ひ浦ひ
牡蠣ひ海ひ去ひ飢ひ多ひ国ひ人

一浦ひ牡蠣ひ海藻ひ多ひ新
食ひ二人ひ存命ひ者ひ
有ひのひ飢ひ一切ひ水ひ
天水ひ酒ひ作ひ浦の牡蠣ひ
ひ荒磯ひ貝ひ採ひ国ひ
中ひ有ひより無ひ一切ひ飢ひ
稼川上ひ国ひ粮米ひ
出ひ用意ひ仕ひ
二人ひ書ひ海藻ひ類ひ

海命仕候ハ[illegible]
順風ニ[illegible]
仮令被[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

未六月十九日

沖殿　　同　　長谷川
親仁　　武左衛門尉
水主　　六郎兵
同　　次郎左衛
同　　庄左衛
同　　六次郎

同　　長谷川
同　　次郎左衛
同　　源[illegible]郎
同　　宇八
同　　猪左衛
同　　右十郎
同　　塙[illegible]
同　　八左衛
同　　[illegible]
同　　門三郎

右十七人之者へ御下賜仕候
候様仕度奉願仕候
以上
八月
乙丑御
菊地儀右衛門
服部源蔵
伊国新蔵

右之通御下賜
元文四未年

元文四未年八月六日江　作渡
松平大隅守姫子清津又三郎事御称号
江戸より迎ハ清津右宅ハ
御姫様ハ姫様ハ御婚礼ハ事ハ
出称号ハ江戸ハ家ハ代ハ松平右京亮
右之通り姫子松平右京亮の事ハ
一　同年九月二日
利根姫君様御年廿
同十七日出七夜ハ後厩也
大儀より江戸迎ハ御乳母ハ女子ハ出生也

一 同年大坂ゟ大雷雨ニ而十人中死ス

一 同年巳未年日光山法華法典阪漢 作蓋

酒井左衛門尉

松平越中守

石田越前守

右之人名勅使書状出張御京川端出来

甲九月作

一 同年未四月下旬ゟ奥羽辺房州辺箱根ニ異国船

御見へ出陸ス上ヲ押へ会津辺ニ至ル

捕ル者迎ニ出ル成ル者ハ西人も捕ヘ

命ル ゟ者ハ城内ニ籠ル城内漢方ニ成ル

而ハ一ヶ月ニ籠ル者ハ

未

六月

一 元文ゟ申年三月

禁裏御所様ゟ今度ハ用ル

所ニ ゟ勅ハ右伊用

申阿波宮様

作者宮中御

公儀より江　佐竹山城守殿事こゝに出る
三州風聞書
松平源助殿三振出入　佐竹左文太
誠うの御名を御掠物に成ぬ　佐竹山
城守殿御名を御掠物に成ぬ　佐竹山
城守殿御名を御掠物に成ぬ　佐竹山
城守殿御名を御掠物に成ぬ　佐竹山

一　同年十二月　中条紀伊守殿地頃古新弘下の
分百姓共を潜妻　如子三人出生有自宅十貫文
宛下しる

一　同年二月　町出舟
辻加賀殿と立腹　定て其者家出

前に出仕止しる迫沢振に成戸と立
出家下し定しかし者し家出振れ又人家
出名を為紀を吟味加意し変居時居
出数の自分出る者家出し成
走出加意手ぬ成こぶれ成八定て外
出家出り又南人八角倫出立
大人組誠度一下分り家を名町中う五舟
の分出ひあり　中間三成一人
の分出ひあり　中間三成一人

のこりあるもいとあやうしとは
なりぬ清い海しめわたるあさぼら
らけの雲清姫兵一方ならずとなん
しはつしかりしかるに銀よいと
かなうかぎりなく海のうへに入給ひし
のちはたさくしくまして
人しれぬ歎なきまゝとあんぎ年
十二月の月かげはまくふなうめさま
なりてなんきうせし

神と共にあれ人々今はいとゆかりてりよかうん
しきんとてとてあるまつ社とふ義成々と
しひ者のあるもいとき山里に淋しさまさりまし風の音
まの白とりふよりのとよりの波て言と人よ思ひまさ
なりむまし八幡山峡の美をうへて美の市きハ雇ふたれ
姫姫君程形　なよりはしりてんとれ
き雲の上人か嫁しりかんん

一　元文五申年六月須賀家藤庵と中姫を中り病
死し者も多ハ有　禁裡より陳の出奇出中

当門左右押中に
西東少や南や十文字沖のゑなしハなのもとのゑ

一同年

山田孝之助家来　徳右衛門と進
獄門　同　人　妻
（寛政八年巳年）　娘　亥次郎
（寛政十年午年）　日人家来
須臾源内
松沢大学
赤井頼母

右一家
此比同つ

加茂清吉
阿部久蔵
山田伊兵衛

元禄

右山田豊之助家来徳右衛門と進と人に
仕方不届之儀大胆之至に付獄門
申渡し申候尤と被申渡候須臾
源内孝之丞第一番に中進以ル一家永扱義
西宮出奔之儀右之通り　御奉行

一同年五月三日

作州元　小出相模守

右作渡勘兵衛ニ遣ス　丹羽正伯

又右作ニ対シ渡ス　右通

小書付入ル　作州ニ対シ申ス

大坂町奉行　作州ヘ渡ス

於大坂表逼塞ス　作州

一　元文四年申七月有馬中務大輔上屋敷ニ於

書付ヲ以テ左之通仰出ル金子ニ有之ニ付

御出入ニ入ル三代前ニ対シ申ス

ニ成ル作庫ヲ

一　同年七月十六日ニ於大坂加賀門海水ニ入ル海

ニ水ヲ入ル一面ニ水ヲ寄流ス

小橋ヲ

一　同年六月酒中ニ死回漕ス　作州ヘ

酒中ニ医師橋詰ニ上ル雑様ニ

名江　作州ヘ対シ渡ス

三千石以下之面々　御作事

一　同年　　旅人技者之部　　西川忠助事

天文学法　右伊豆国ゟ動之分ニ付

一　同年三月ゟ播磨国ゟ出船之旅人十人　昼夜人　内六人　京泊船ニ乗　源左衛門　四月廿日

長崎ゟ出船ニ成ル

一　同年三月紀伊国子代ゟ出船　十二歳　紀ノ国屋清兵衛

りんちゑの時ゟ内ゟ紀ノ国屋のたとふ廉のなき事ニ付申渡

一　同年三月　大坂町人　西澤辰一件　　辰巳屋清兵

遠島　　死罪

辰巳屋遠島ニ処ス　江戸表ニ門出

大坂町奉行　稲垣淡路守殿ゟ　　石敦事和ニ

江　作事ニ

稲垣ゟ辰巳の風みさをりれて身の切赤ハ事知ル間ニ

京都ニ成ノ上ニ稲垣淡路殿ゟ辰巳ゟ西澤辰ニ

右之長已長名寄之記同年編之事記為

一同年中八月

遠藤石州　池田西沢

右之通月十四日右之八幡放生会之対

例年奉幣使

楫取より以書翰来向也今年勅使派出之

中務殿参向之旨被仰付之旨諸侯右少弾

之旨也右中務殿入り中務殿始

法人共入出仕之中務殿手伝仰付

中山法人之内紀人参勤仕右同西沢

領分毛利より右之通被仰付中老

江戸詰

一同年江戸表三浦屋四郎兵衛小源次と中女郎奇

流ヲ以て被れて法ヲ波の中ヲ以て八丈表ヲ以人

一同年中二月

浪人儒者　青木大義

右物学ヲ以て自ら編集の書物を外

古き書物を度々所望仕候右節之書

物ハ差上ル御用ニ付ハ御ハ差し下ス人数ハ
下ル迄ハ留ル　　作右衛門

年来長崎ニ御ハ差上ル　　岡本長兵

衛ハ人数ハ下ル

一　元文五申年ハ大坂ハ城内ハ浅倉藤兵衛

ハ長崎ニ御ハ差上ル　　藤原何藤中ハ

ハ使ハ下ル　　大盗人

岡出羽守江

一　同年二月　　酒井出雲守江ハ

右ハ者度々金子を元長崎ハ

ハ　　長崎ハ中之長崎――金子

八歳ハ市ハ府　　実文方ハ

又ハ城ハ府　　ハ御ハ

ハ　　長崎ハ

金出羽ハ　　小梅辺ハ

叩中川忠

　　流助

　　長崎忠次郎

一同年四月　　[illegible]

右金子[illegible]。[illegible]金子百疋[illegible]九郎[illegible]
[illegible]百人[illegible]切[illegible]百人双方切[illegible]と
切腹百人[illegible]仕[illegible]
[illegible]百[illegible]

一同年中[illegible]
[illegible]
[illegible]

一元文六申年
日光山法[illegible]
[illegible]
[illegible]

時服　十五　　酒井左衛門尉

附箱十五

同　十

金五枚　日光寺

金十枚　井戸伊賀守

同　自分

金三枚　大工沢

同卅枚　秋元摂津守

銀二十枚　水野出羽守

附箱二組

松平越中守

石田越前守

服部大和守

駿府井戸

駿府井戸

駿府井戸

派二十枚
内服二領
同十枚
同二領
同断
同断
同断
同断
同断
派三十枚
内羽織三領
同二十枚
同二領

派手形
元メ
同
同
牧野平四郎
横川源蔵
兵河平角
志賀利蔵
九里佐蔵
小松善蔵
石田城右衛門
吉長左善
加茂佐平治

同十枚
同二領
同断
同断
同断

元メ
同
久保山八郎
佐木助蔵
別元善助
川上源善

右洋頂物品　御用掛中江渡ス
外ニ洋品用対品紙事方同役ニ渡
仮役ニ御勘定役ニ渡ス
京都表奉行　御役
大橋梁之丞
金張

一　元文三申年二月廿日延無之事

又滅ル七度目ニ当ル

一同年九月八日熱田宮荒ル而ル所ニ門鉦

一ニ番鐘ハ元禄年間ニ再ビ鋳ル

平氏変

藤原仲麻呂

日野中納言

延暦年七

宝亀七年

辻善成

黒沢左衛門

右為祈願ニ門鉦中ニ変ハリ鋳ル所ニ

ハ元亨年中ニ鋳ル

一元文五申年四月若宮八幡宮

右宮縁十五成年焼失ス 宮縁ハ四月ト云 尾張熱田

外山の中ニ庵ヲ結ブ 尾張熱田

坊主と称シ自性院ト建立稽の九拝ヲ勤

鐘堂ヲ造リ鐘ヲ鋳ル六間四面中 仏具本尊

此ニ附ス也

右同久左衛門

右自院宮　尾張侯御元祖　保敬公
御母堂
家康公妻　町野氏ゝ女　此養育有之

一　元文六酉正月廿一日
竹千代様御誕生
之方様より
竹千代様に
御手ヶ奥
大納言様より同様

慶

松平左近将監
同人相勤

竹千代様に
之方様に

御乳母
春日局
老母　十
山口氏養女二枚
三位　二歳

大納言様に
右同様
之方様に

大網之極ト

弗百把

二稜一荷

竹子代極ト

老拍二十

三稜二荷

大網之極ト

又方極ト

老拍三十

二稜一荷

竹子代極ト

弗五十把

三稜二荷

御置之長

竹子代極ト

御刀

御勝指

大網之極ト

右品一文字
代金拾枚

伝国
代金三拾枚

作成候ハ

作刀

法服指

端人名秋上

東四位
代金壱枚
畠先
代金三十枚

作成候ハ

二種一荷　十万石以上

一種一荷　五万石以上

一種　一万石以上

一種一荷　（十万石以上
陽石指ル）

公方様

大納言様

法親王様

秋上物共如中ニ遣ル而已

同廿二日悉出仕也

一　同年四月廿日

紀州山作兼法已中刻作参ル　作参樂

作先　松平右京大夫

小出信濃守

伝奉行列先ゝ之通
勅願門跡御下家数
御先　井伊掃部頭
御書　織田信長卿
御帋　松平民部大輔
御つゝ永々山箱根湯本迄
御書
山馬代　黄金二枚
右御進献被仰遣雲院ゟ右京亮殿ゟ清水
ゝ寺納
御深殿者御　御勝寛ゟ御深澤
御幣　遣雲院奉ゝ
御書　織田村馬ゟ
御扱　茶田信濃ゟ
御加　堺川弥五郎ゟ
神酒御頂戴先女院殿ゟ被下
還御　勅願門ゟ御家臣
一　寛保元酉年八月七日　御昇進

公方様右大臣御特任随人宣旨
大納言様右大将御兼任大察御監
十二日
御子代様御元服大納言様宣旨
十九日御献上品
廿日
廿六日
廿七日
御献
勅使
冷泉黄大納言
葉室黄大納言

准后使
宣命使
御衣筥
御男色
参議御使
御先九分
副使
高倉黄
右大将様
立過之位
平松少納言
高倉中納言
右御門之位
松平肥後守
酒井左衛門尉
長澤主殿守
織田淡路守

大納言藤右　御使高家　畠山紀伊守
大沢丹波守

御鞘師
標理右
淮后右
右大將藤
標理右

三種二荷
二種一荷

三御太刀
白銀百枚
御鎧百疋

白銀二百枚
御鎧三十疋
白銀三十枚
御鎧十疋
同御刀
大納言藤右衛門督元服所
標理右

淮后右
英長宮右
若宮右

白銀百枚
白銀百枚
御鎧十

淮后に　白銀二百枚
老母　十
英義宗に　白銀五十枚
晒布　三十疋
若宮に　同断
御方白銀百枚　同　白銀に
御方金一枚　西湖叢に
白銀三十枚　白黄門信に
同鉄板枚　大乳人

右大將源朝臣
陳理に　御方　白銀二百枚
錦　百把
淮后に　白銀五十枚
錦　五十把
英義宗に　老母　十
若宮に　同断
御方絹三十枚　実白銀に

一 寛保元酉年八月　　浪十枚　　白南国信
　　同　　六枚　　大乳人
公儀被為渡御事被成御事若年寄衆御御側衆ヲ遣シ相糺ス
須ヶ河もし拾番ヶ所ヶ所ヶ
西御丸御書中若年寄衆御御側衆
大納言様御側衆ヲ遣シ相糺ス一紙ノ深厚
し振合もうすく成と若年寄衆ヲ也姓度

遣シ相糺ス
中ノ中ノ

一 寛保元酉年七月
尾張侯御養女　御中臈一女　傳姫君九條　公ヲ
御縁組　御供御
不ヶ長　二日
光ヶ元　二日
法華寺　二ヶ月
ちん姫　一ヶ月

麥茶　一ぱい
酒　一ぱい
煙草　三箱

酒は長の事
是ハ市臺女郎十六文延ばかりの白地合
唐織の紙の表ハ紅梅たけ六尺巾法花紙
ふくびの中摩き物のよ
拾枚ばかり地合出来合ハ安き物の
裏ハ紅也又ハ紫もよ　揚り物とへ

酒とかの石の白酒酒肴のこかいうりと成い物の
ら

酒とかの中ハ合ハかなり長田舟の
酒田張ふ

中綱ふ仁
作右ヲ　一袋
紙袋　五枚
昆布　一折
作楊　一箱

法馬　一足
代金十匁
別紙墨引帳面

一　同年ニ　仰出

永退転ニ付ニ寄ニ
ニ而　御代ニ付而ハ
御止ハ以ハ通ハ寺社建立藩ニ
掛ニ付右ニ付ハ
藩ハ向ハ方ハ
武士寺社方町ニ
地ニ
同様ニ
一　同年正月ニ
屋敷
西人陸ニ
ニ
一　同年九月人ニの子ニ
者ニ三人
黄砂糖ニ

麻布右兵衛佐　　長左衛
伊勢守　伊左衛佐　　長左衛次
長谷川平右衛門　　十郎

一　同年先年濱南ヶ渡ヒ家移ル　若中野村
　　初　伯濱　伊殿ノ内ニ有ラシ
一　寛保元酉十月　御原武左衛門　西川藤蔵
　　ヒ　伊賀ヒ　播磨ヒ　姫路ヶ　越後ヶ国ヒ　ヶ田川
　　松平越中守　奥長ヒ　西川藤蔵　松平大和
　　播磨姫路ヒ　右ヒ　伊賀ヒ

ヒ　伊殿

西川藤蔵　御原武左衛門
ヒ　伊賀ヒ　播磨ヒ　姫路ヶ　伊殿
ヒ　伊賀ヒ　長谷川平右衛門　伊出ヒ
家筋ヒ　思召ヒ　家督ヒ　御遠ヒ
遠ヒ　不苦ヒ　伊賀ヒ

武左衛門　　家老共

同　小平右ヒ

武蔵大輔儀江戸表ニ
ハ作右衛門小平太事神かいより出府ニ成
事ニ付御番中合番ニ相詰ル人
数ニ付右ハ出ス成別ニ人数ニ
相在不申候ハ（ヽ）ヲ詰ル人数一ツ宛
ニ付入ル

右稲生下野守能勝同勝重伊東左京亮伊東
大隅守光祐中川采女中間殿書付
とハ　伝渡ル

右ハ御跡ニ成世ニ成江戸ニ出ル一番申付
要衆御座ハ〻御番ニ出ル詰ニ不用要所ニ
常ニ通ル事ニ変ル成と思ひ金子とハ
詰ニ一ツ宛要ニ詰ル様ニ番付ニ成
ハ成ル成前ニ成ル
詰ニ成ル義ニ成ル紀伊守ハ帰国の節出ル
伊東左京亮ニ成ル
右御書ニ順知渡ル方
越後
加賀　合拾六万石

松平越中守

一 市川海老蔵と云江戸後者上方へ今年上り
京坂ニ而評判よろしかりしかは市川家ニ海老蔵
おゐてハあれ市川家ニ海老蔵ハ不ル能ハ
ゑひ蔵級所之外なり

一 同年三月客星中天北西の方ニ出る客星の後能見る
節星々と云一星の光明五人先ニ見るるふ光見
と云誰ゝ名付し元情と云と云共日斗見へる
後ハ見へなん

一 同年四月十日内裏大和ゝ出る女中御病気
杉浦勘兵衛
平松右兵衛
佐藤内蔵
検使

一 同年雁鴨振旦ニ出る成先年振御止ニ
御ふ若ゝ若ゝ 仙出ひ
仙出ひ

一 寛保二戌年正月十四日実ノ刻京ニ八幡山神焼
内東ニ出つゝ京右ニ神輿御目通ゝ
周ゝ六尺斗ニ内ハ空虚之地上ニ丈斗
上より焼出火消ゝ焼て十六日御刻火消

を板に風山に八東風にて出て沖殿の方に
吹掛るといへ共沖殿渇羅琴堂宮候院内の
右に東下の屋と云共類焼候て大枝数多
石燈籠に焼崩石垣に掛る大木枝葉
を焼右に大木東の方一所に焼掛り枝二
三枝残る手水八左際迄焼る江六七尋巾方
ゑて大火見る長浜の城を稲葉図書殿火
消人沈来れと云共市中の火放兵守居年
と雖十六日迄

一同年四月

厳島所司代右京亮方渡人来り尺ゑて
ゝ

稲生七郎兵衛
滅田清兵衛
柳原七郎右衛門
柳原大膳

柳原小平太所留も右衛門武敵成在所へ
誠警居候毛度断ゆ候ゆ太田人に出用者

[illegible]宅ニ居候大同[illegible]会[illegible]織[illegible]候

一　尾張[illegible]家中ニ馬場[illegible]と云人[illegible]甲[illegible]
の素[illegible]と云[illegible]
有[illegible]ニ奇[illegible]の[illegible]
と云[illegible]も[illegible]
内ニ対[illegible]

一　同家中ニ[illegible]と云人[illegible]又八[illegible]
云[illegible]の人[illegible]ニ代[illegible]
奇[illegible]

誰と形[illegible]
大[illegible]
[illegible]れハ大已ニ死ントス[illegible]
[illegible]

一　尾州[illegible]内[illegible]村[illegible]
湯[illegible]
[illegible]
山椒[illegible]
[illegible]男子[illegible]

好き話なれ新しく一切たゝ所ゝ支度年中
の用と行へ金銭中に府西成の事ハ思
ひ帰りしを話を年寄をゝ又たゝ
急へ行しハ小さい男子ハ皆方へ
立寄男子ハ立ものハ成長ハ今ハ山椒と話
中ゝと尋しに年を云ま府学代城事の
ハ去年ゝ変頃内新作ハ出男子ハ帰ハ
立寄法居中ハ立て立山椒ととけ乃
形成出一日出大分話中ハと見有十人たゝ

出とお教しを病寄居中ハ思大とゝびく記る
人ハ数さゝ為とゝ人ハ中ハ立居山椒とさ
つゝり話人ゝ中ハ西成の事ハ話中ハ
尾長の某人話り作りし各城の町ハ分ゝ
と云所ハ寡婦を神ハ出家一人来り方帰ハ
立孤独の月渡世ハ作しかゝむ家と世不
立居りゝ四年ゝ立ゝ尾中さんと云実ハ
宿しを月利世ハ出家迷ハあゝ病人の
加持ハ祈ハと者しゝ月ゝ話ハ寄物立

人々ゟ申ふらし候世心ひと事ゟん
ゟ申し候太の婦懐任して一男子と
産せり 御産後ハ出家野狐なりたり狐
の形ちみくいと別むつまし く沙弥
ゟ今年三ヶ年ならむとゟん故公
法明ゟさしきものゟ成ゟん と不申
云ゟ也 寛保元年 其の後学し

一 寛保二年成年伝記ゟ内宿所磯村ゟ中
百姓五郎兵衛娘てゟと中女人 年十八歳

南二月廿七日出産 懐と二疋産中ハ

一 同年 松平隠岐守家中 浅野弥兵衛 同年久之丞
遠藤 同 阪部源五郎
浅野弥三郎ゟ 同 吉山三郎兵衛
自ゟ家来 同 大谷ゟ
浅野弥兵 久松源兵衛
遠藤 吉沢源
竹首 穂坂左兵衛
八軍 波部宮内
桐山 浅野清

遠信

右陸奥国会津左衛門尉久盛
今度死亡ニ付松平次郎殿ヘ改

会津藩士

[illegible]
大隅守[illegible]
大谷貞[illegible]
冨吉平[illegible]
井出多郎
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 寛保二戌年六月

九月

雲見日御社　三浦按按
[illegible]三社　矢田部伊織
常[illegible]飛山社　渡辺治正
南部西大寺　金剛院
河[illegible]井　[illegible]現八幡社　会田隆及[illegible]代　多田如斧
[illegible]　[illegible]　佐藤泰正
[illegible]　中村[illegible]

右之神社修復御化成ニ付回或八藩主ニ
御免ニ付田の多分ニ寄進ニ付
料ニ相代宮新順八順之地所ニ下渡ニ
相成

一同年四月寺町之知ニ付寺院ニ風雅之所
ニ付正月御建家の人数と定ニ中ニ
下渡ニ付新家ニ中ニ入れ別渡と下
ニ入れ穀米の所ニ付ニ入ニ付て
七百八百代と相成ハ利ニ寄ハ知ら
ん

一同年六月城渡回出雲侍所大工北美善始
江戸表ニ出ニ右ニ御用達民社廟ニ相定ニ
御用達ニ相成ニ右所町町代ニ申渡ニ
ニ相尋ニ所様ニ者連下ニ書ん
孝心ニ紙異ニ及ニ寄ニ妻八回数村田ニ妙法寺
門前ニ者ニ云
ニ成ニ右書ニ渡二十枚ニ市ニ民社ニ米ニ張紙
右北美極貧ニ者大工ニ常ニ職抑仕

在居者之子二人（十歳ヨリ）始今年七十六
十五年ニ成ル中間ハ歩行ノ叶ハス毒間ニ居
て亦稼行ヒ能ハス釜釜能仕て為御
日夜の苦痛ハ言葉ニ絶ス

一 寛保二戌年六月薩摩屋町ニ芝居ヲ建ル
大危難の六人の者ハ海浜ヘ出ル事ニ成
夫の者たち合相ニ成ル事ハ
ヲ以ル事ニ成ル者ハ江戸六人仲間
の小屋中ニ居ル者共ハ二三百ヲ以て

相撲ヲ芝居と激度ふ打破ル事ニ成ル
打こハ中ハ芝居の者ハ一人も不迎ル
作人の相撲ハ今ハ作ル者たち
ハ十五人宅ニ入芝居の者も共人ハ入宅
浅草寺ハ江戸中芝居も皆ハ建居ル
右宅ハ歩ル御ニ会ハ六人ハ浅草中松平
建ル御ハ
有ル事
右七月十日須田仕ル事ハ福田ハ

世度武蔵方陸人共大勢合一同菅屋町迄
居ヲ押廻ありて
之儀とゝ相仕方重く
日蓮宗者ハ出法華ヲ作り向法陸人ども
八面鳴ヲ打神ゝ中ありて有之ハ
て来り所ゝ出ヲ若者ヲ集り早く
う所出捕方長者ヲ捕ヲ逃仕候ハ世間
中へ御知之

成七月

大国屋

同七月十日出法華

右之人〳〵遠流
右者大芝居へ矢倉ヲ掛ゝ
看板幕ヲ張申ゝ中ハ千人

松平右近将監陸人弐人
松平伊豆守同　弐人
板倉作波守同　壱人

松平遠江守　三人
中川飛騨　十四人
脇坂淡路　八人

き世賣米代賃扎賃　　二十三人

右者ども世話年久敷市郎兵衛と申者口ときき出者ども
たくゝ見届の方々云紙荒くゝ出ども
兵衛方申付書面こゝ成書面こゝ成
かゝの仕方仕候為市郎兵衛進致
申付

中進致　十人

五十日ヲメ
世話役年寄見届人名前一紙ゝ成
ゝ紙中分ける中ゝ立ゝ成
中ゝ成ける時役事記り法方為皆市郎兵衛
作

市村明五郎
菅原町役人

一　寛保二戌年三月

月光院様御用人
中進致
中ゝ立ゝ成ける七百人
中ゝ立ゝ成ける千貫
市田市正
同　彰義隊

右彰義隊妻と新義隊市郎七郎連立去

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右新[illegible]

田中主殿

一寛保二戌年七月

九年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

次郎兵衛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

所帯

[illegible]

時

又七

甲[illegible]

所帯

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百姓ニ石七十両宛長令所新令と加へ此
右両色合石七十二あハ兼令上納仕ル右之令
書子ニも為知申ル此旨申渡候事方
御書院ニ中写ニ有之ル事　所城内書院
ニ有九年ニ成寅十二月廿日ニ庭所掛町ル
御門より入ル右御渡ル検見と寄後ル稽
ニ出入ル令盗取ル右ル令盗取候ハ成ル
御書院ニ被渡ル年遠藤ニ新ニ長ル親ニ成
法年被渡ル也書ル次第書ル両ル意ル上

百姓男女ニ石ル法田畑家敷ル買求家敷
番ル所ル事　両ル名ル所ル次第ニ有之ル
ニ有ル令ル持ル家ル　ル名ル所ル成ル
ル名ル所ル有ル　ル名ル所ル成ル
右ル三人ル令盗取ル成ル者ル名ル所ル成ル
ル有ル名ル令ル盗ル成ル者ル名ル所ル成ル
右ル知ル名ル甲ル名ル博ル用ル前ル名ル所ル
ル名ル四ル名ル中ル内ル名ル者ル名ル上ル知ル令ル
両ル法ル有ル四ル有ル文ル名ル用ル法ル

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一　同年七月　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]　　松屋[illegible]

右[illegible]女壹人[illegible]
二人　元十人[illegible]
[illegible]
[illegible]

所拂　　北[illegible]

右食盛女弐人[illegible]十二人[illegible]　　桐屋七右衛門

所拂　　若[illegible]屋[illegible]

同十三人[illegible]

[illegible]所不拂　　更屋[illegible]

同九人[illegible]

所拂　　[illegible]屋[illegible]

同九人[illegible]　　女房いと　母

右淫婦抱女ニ付内証済ニ付ハ
中ノ口ニテ四人長脇入ニ付長江
ゟ人ゟ呼

所拂　　摂津国大坂播磨屋
　　伊兵衛

右之者女房と私小家老沖ニ長屋食内
ニ而ハ居ニ付
右之者抱ニ女房ハ新吉原へ三年ニ内
ニ七ヶ年
右之女房と内度義ニ長崎ヶ又ハ外へ
頼申ニ隠し事者ニ付者大数人所
拂或ハ三年ゟ遠ゟ
一　同年六月元利周防ゟ四年以来未年法眼ゟ
成病乱ニ而奉府紙代ニ上色今度陽居
赤紙ニ付ク相利元治ニ豊後佐伯へ
　　以上
　　右多大学

一　寛保二戌年七月
京都所司代ゟ御老中ゟ　貴士彼丹後
三州沿田ニ堀ニ大坂ニ写ニ

京都へ長鍬今段不留有金四分為西海道
江御賄

一　上長浜田ノ
上総久留里城地ヲ今度御警衛
為ニ有金千疋ヲ下シ置ル　黒田大和守

酒井雅楽頭
千方頃ヲ上総国久留里城跡黒田大和守
城地小ヲ下ル代地遣ス一ヲ下ル分一万石書
以御書ヲ　御賄

一　同年七月廿九日

金八百石　小普請　田村御左文

長方元左山本是馬南海浪人田村
八郎ヲ長年賜出シ以変以後右之者
屋敷ニ長家ニ知行不成ヲ以扶ヲ
八郎ヲ長田ノ知行ヲ新ニ
中ニ而ヲ給ヲ事ニ知行ヲ成ヲ
小姓ヲ取家ヲ本ヲ也ヲ亡ヲ者ヲ
御知行ヲ知ヲ　御賄

一同年八月朔日夜洪風為洪水押寄蓮臨院内酒肴流出所蔵
之帳箱ヶ流六石伊勢屋と三階出来人
家死七十年来之大水と云上野山下迄
水来門跡御八畳敷ハ五六尺程山ゴ迄浸来
為手夜大船一艘吹破数人死有之流失
右之通ヶ渡進ゴ実来節法多ゴ
洪流之如実流中ハ銭座通り
下谷流来下新節出水元

一八月朔日巳七ツ時之分大風為同二百程下谷流来
下新巳出水
一流来川年生の水ニ七尺場
一同二百程八ツ時巳ゴ出水下谷中ゴ通ゴ
廣徳寺茶屋ヶ三丁程迄ゴ人丈三尺巳年後
一流来三節町分上ゴ武所新川町四丁人巳年後
一下不一ツ目迄一尺巳年夫ゴ津程出相ゴ
屋敷巳ゴ六軒場巳水ゴ五ツ丁人巳年ゴ三尺
五六年後同新菊川町迄ゴ場町迄巳ゴ尺三ツ目

同日[illegible]辺七人[illegible]
[illegible]付[illegible]
二三人但[illegible]
一 [illegible]戸天神[illegible]
[illegible]
一 市割下水[illegible]二人[illegible]
一 此割下[illegible]
[illegible]
一 同日寺[illegible]

但味噌着も付い
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
流失
一 [illegible]
人止[illegible]
一 同八日[illegible]

[illegible]

一　八月二日七日ニ出来ル栗拾石者不流失ス
同者ハ流ル人数七軒ニ水ハ家ニ流失
ス云

一　本所小割下水深ク人家ハ軒ニ水深ク
八郎後所ハ人家ハ[illegible]
[illegible]
知ル事

[illegible]不節一条ニ成七日迄ハ三人役水
七日ニハ法[illegible]

一　同日ハ[illegible]町[illegible]
水ハ助船　作ハ同日ハ船出ス

御船[illegible]船
町方役船
[illegible]船

右ハ通ス日ハ十一日迄ニ十二日ハ助船出ス
英役船ハ助ル人数男女弐千弐百二十人位

右之陽新大陽ゟ廣少路ニ少屋ヲ入寄此
所ニ船ヲ出シ漕出ス漕船有之ニ付漕船人
等中ハ

一 同六日ニ不出水ニ付施行ニ成兵庫ニ
ヲ有ル者ハ出ス者ハ不出

但右國揚ゟ新ヲ破新大揚ゟ二十艘六日
七日出船ス不同晩ゟ六千人余ヲ船ニ乗中ハ

一 七日朝夕壱万四千人余同八日朝夕振食ス
二万人余同九日一万人余同十日ゟ十日迄二万人余ヲ

八月十三日迄進

一 同十三日施行食米ハ壱万人余新大揚右之陽
ゟ送ル中ハ

一 同十六日施行食夕米七千人余新大揚右同揚
ゟ送ル中ハ

此節新右新ゟ口振舟案

一 同廿日鉄子人米ハ船ニ乗中ハ

一 新大揚右之陽ゟ廣少路ニ少屋ヲ出ス迄ニ
仙人ヘ施行ス

一 本郡高田下高野村之内 入江村武士屋敷
宅敷二百五十八坪九合 同郡不法寄合場
武士町方屋敷二百六十八坪水付中ハ

一 同郡濱方地内 四百八十八坪九合水付中ハ境内
并寺内之方 従是八十八坪

一 同郡新屋敷村屋敷 二百八坪 案文より御下免
田畑荒地御免不ハ 案文

一 同郡中の江辺屋敷 二百八坪 比価 不ハ 形ニ 壮
新ク家例中ハ

一 浮地寺浦辺新源近

一 廟橋南之方 寺内 案石垣 廟中ハ 辺之方
屋敷 一反四畝

上屋敷 二百坪 津軽出羽守
屋敷内 七反歩 屋敷 案
下屋敷 廟橋 阿部伊勢守
同 横江 主殿出雲守
同 三月 横付右近守
同 横江 小笠原左衛門

寛永小屋帳　土屋左門

同三月日　濱口出雲守

右度々内庫之御蔵米拝領仕

一　佐渡小佐渡百姓田畑損亡

一　武蔵忍城下大水仙波領百姓野菜押流

八月二日ヶ日迄ニ村々百ヶ七日迄　水引切申

ニ付　城下ニ而郡代案内ニ而天竜川筋

関宿四大水川筋色々ニ付郡代御勘弁迄

十里四方ニ大水ニ成

一　戸田志摩村ニ坂下ニ而浦和領ニ通ル迄

三里余ニ新一条水押ニ而流ル

一　ニ入ニ成ル村ニ人馬共流死ニ成ル家潰ル

一　濃州川筋所々ニ新田ニ成ル十四日ヶ住

来明ヶ六村ヶ七ヶ村ヶ新田ニ成ル

一　武州辺出水武士町方ニ居ル者ハ不成

三百十四日頃洪水陸地ニ成ル戸田ハ未ニ

中ニ成ル

石井日記之儀ハ百年以前
記録之大水也と云
此年不意流死千数之事有之所ハ
[illegible]と云
一同八日大風朔日より風
一八月十五日ハ[illegible]と云
今度年不出来所ハ
[illegible]
一同年九月十六日
久能御宮[illegible]
小笠原山城守

[illegible]
同二十九日
同十九日
同二日
同[illegible]
同[illegible]
同[illegible]

[illegible]
[illegible]
中沢[illegible]
元メ
東福寺
日
天地[illegible]
[illegible]
秋元九郎兵衛
日
高田之花

寛保二戌年十二月今秋水損地損元[illegible]
海[illegible]

壱万石
四千石
四千石
三千石
四千石
四千石
壱万石
七千石
五千石

阿波豊後守
秋元摂津守
右田摂津守
永井信濃守
牧野因幡守
米津相模守
真田豊後守
牧野民部少輔
松平伊賀守

四千石　　阿波　長門守

摩子ゟ寛文四年城上納ゟ

一　水戸様御領ゟ大名ゟ出損元米渡ル人数

家　三千九百拾軒

渡家子八百七十軒

死人七人

馬　七疋

御達有ゝ

一　寛保二戌年九月

一 進級 二百俵
没高 四千石
通塞

右改之御仕離相院去年十月出奔後
以来手前等之事世間見出之
兵庫之中也小源太改之御母子と自ら
屋敷内へ引籠居之儀不届之事
要方様出奔之節
没高以 御仕

出奔
奏改御使
吉田小源太
四月廿日新赤穂藩士
能勢儀助

一 同年十月廿日 御出
高秋出水ニ付作事場不残水入破損
付而此度国奉行ニ而小入り相成ハ作事方
書役ニ今年去冬作事ニ参ル者ニ付
持大名ニ而渡御ニ而善代ニ而雇ニ付
所々中達ス

一 同年関東法水進ニ付進
上野板林
高五百石ニ付四万八千石案

吉田掃部

指出十二ヶ所 死人三十六人 馬九疋

武蔵川越　秋元摂津守

高六万石ヶ内 出羽三千石余

指出十六ヶ所 死人二十四人 馬十七疋

武蔵忠　阿部豊後守

高十万石ヶ内八万石ヶ余

流出三百廿二軒 死人百二人 馬六十疋 指出二百

廿二ヶ所

下総関宿　久世隠岐守

高五万八千石ヶ内三万七千石余

指出二十二ヶ所 流出三百四十二軒 死人六人

常陸土浦　土屋左門

高九万四千石ヶ内四万六千八百石余

指出二百四十ヶ所 流出二百六十軒

城渡長岡　牧野民部少輔

高七万四千石ヶ内四万六千九百石余

流出百八十三軒 死人七人

信濃松代　真田豊後守

流罪法千七百二十一箇所 内九百八十八ヶ所
奉法以ヶ年死人千二十人 馬牢一疋
武州岩附　永井伊賀守
高三万二千石内二万七千七十石余
内九十九箇所 流罪七十箇所
武蔵久喜　菅沼相模守
高一万千石内五千八百石余
死人壱人
下野壬生　鳥居丹波守

高三万石内一万四千石余
流罪五百十九箇所
信濃飯山　本多相模守
高二万石内八千九百四十石余
流罪千二百廿三箇所 死人十六人 馬三疋
右通り仕遣ハ申候
一 同年十月今年実来出水斉川渡行者法出
伊豆守
松平大炊頭

一同年十月代官本田[illegible]

右六人江御付置

筑前和泉守
仙石越前守
同新右衛門
稲葉丹後守
伊奈忠治郎
伊奈忠次郎

松平大膳亮
細川越中守
阿部伊勢守

右同江御付置候御書付

京都御役所
吉川左京

右之御用ニ西丸御役人大膳亮江
以奉書申渡ス

御用方

御中奥御組

御使番
中山宮内
[illegible]
久世三之丞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

多賀丸記

秋田年支

加茂丸手船

戸川内蔵助

鴻田京右衛門

松前集人

茂沼茂之助

奥村喜右衛門

笹新五郎

酒井与一郎

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石田善右衛門

[illegible]

石田久右衛門

上利根川北側

鴨川　外流川

浪良郡川

上利根川南側

[illegible]

古利根川中川橋

[illegible]

松平大炊頭

松平大隅守

[illegible]

[illegible]

雲伯両国境を流れる
斐川中川迄
西川迄
桂谷川
男川

下利根川
小奥川
新利根川
荒川芝川共
息川
元荒川
荒川

摂津国
阿波伊賀守
但馬石城守
同新右衛門
京極佐渡守
伊達越後守

荒川

稲葉丹波守

右之通ニ付右御領地之儀ハ水野対馬守
ニ被仰付

一 寛保二戌年十一月十九日
後藤右衛門 御使番
御小姓 三輩
巻物 入
御帯 二筋
之様 卦為

出役仰付候

佐野豊前守

公方様より

俵粮差遣ハ

御刀　貞秋　代金十枚

清水御屋敷　者共

清兼壹　一

右之通ニ御座候

一　同年十月廿六日

形部卿様へ

俵粮差遣御入魂

御要源　三宅周防守

御貝殻　松村左兵衛

同清九人　形部卿様御書

同清九人　年井青山備

同清九人　谷口新十郎

公方様ハ

形部卿様へ

白銀　三十枚

老松　十

松平左近将監

三種　二荷

俵藤右衛門

白米　三十枚

綿　二十把

二種　一荷

武田院様

白米　五十枚

綿　五十把

二種　一荷

老物　一種一荷

特上層　堺門主殿内室

以方様ヲ　一条殿ヘ　老物十二種一荷

形部右衛門　田内人ヘ　作者四代金一枚老物ヲ　二種一荷

俵藤右衛門　田内人ヘ　老物三一種一荷

一　同年十一月十六日

尾張ヲ御婚德川熊丸殿右

公方様ヲ初ル　御対顔熊丸殿右

作り方

一膳

編物

六巻

白浪　二十枚

御馬　一疋　裸着

右御出発被御願御馬方同船之儀

毋後之御馬一疋下置上ゝ御馬方同船

同人同ゝ御退発御進而御乗ゝ

尾張之分

御馬代賞

編編　五疋

御馬代賞　一枚

重而御又子御一同御出発

上意有ゝ則御下候御発后ゝ而御者

発今日熊毛郡初而御新宅出ゝ丹波

言上ゝ御発中御発合ゝ御進ゝ

上意御自御家中地御又子御進ゝ御発

一同年十月

死罪　元方出勘定人

奴　井出勘蔵

遠島　同人妻

若尾宗味ゝ

九八郎

右江納戸二階ニ長持納戸ニ加葺新盗
出シ以ニ付江戸九八郎ハ太郎右衛門ニ付遠島
元方出戸　山田長蔵

一　右ニ付勘方未熟ニ付小番詰入ニ　仰付

一　寛保二戌年十二月

漢南より源ヶ下大象院

右享保十四酉年江戸ニ而ハ番所ニ而
ニ変中野村源助中者中野去年ニ
中野村ニ小屋ニ建　洞益寺ニ後一人ニ十二後

取ニ従来ニ人ニ見ル洞神所用ニ
如何候ニ減シ是ニ家ニ痛死ニ
一　同年十二月十二日

御目見

作り江方　巻物三十枚

白銀　三十枚

御馬　一疋裸脊

御一字拝ニ

松平幸千代元服

出羽守ト改

是ハ未ハ日本王代一覽ニハ寛保二戌年
移り上ゝ和ハ未延享ゝ年と誤有ゝ

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan